

バストス週報

第百八十六号
昭和廿八年
十月廿五日
発行

登録人
KOITI MORI
発行所
RUA PRES.
VARGAS 188
BASTOS
發行
織田 音
C.P. 712

代
一 60¢
外 70¢

われわれは

どんな移民を望んでいるか

(西尾鳥取知事に対する答)

三回に亘って鳥取県知事の事のみトッポ
記事とするので中には飽かれる読者の方
があるかと思ふが、今更だ未だ伯た日
本の知事の中では西尾さん位フツツルをよ
く見て行つたはあまるまい。アマゾンから
聖市迄、聖州各線ハラナ州まで歩き廻つ
てつぶさに農村の生態を覗き、経済の機微
にふれ、随分遠慮なく自説を述べ意見を吐
露して行かれた。そして新しく移民を迷
り出す日本側の立場として受入付勢の側
にある日本人コロニアを調査するのの時
間と労力を惜まず使つて貰つた。この事
は今迄の知事がよく為し得なかつたとい
ふのである。移民問題のやがて論議さ
れる今日此の事を取り上げ、吾々の意見
を述べたり、西尾知事さんのよう百人に聖
州移民の要望を披歴することは此の際無
駄ではなむと思ふのである。

先づ西尾知事の足跡を辿つて見よう。バ
ストスでは十月七日同県人二十数名に團
まれて池田旅館で純日本料理のパンチ
で一日中メリ滞在。夕方自動車で行ノホ
リス町へ向ひ民谷長村の案内でリノホリス
市長を訪問した。之れ鳥取大火の際同市長
が率先して多額の寄附してくられたことに
対する謝辞を述べた相であつた。市長は
非常に感激した相である。巧まざる民
主外交といふ可さか。民谷長村は折より
五キロ程のシチオ。同夜小学校で講演を
した。が面白い一コマがある。リノホリスは
戦後、も隠れておいたが、敗戦が一入も居な
いので、喧嘩口論のなや断つた。敗けた
といふと、御当地の方々のお氣に觸るそう
です。が、敗けたのじやない勝たなかつたん
です。と終戦日本の話をすると、そんな言
ひ方をして皆を笑はせた相である。知事
には、さういふ洒落な一面があつて、好意を
持たれたようである。民谷長村方へ一泊。
八日ピラッ通。古加球園のレホルマ視
察。夕刻アリアンサに到着。オニアリア
ンサには鳥取海外移住組合時代の土地が
三十域程ある。その調査をすまじ、移住
地内諸学校及墓地の見学をすまじ、アリアン
サ二泊。十日はチエテ河の大吊橋を見物
し、アラサツバ市におでア市より飛
行機が一旦帰郷の途につく。

越えて十月十二日飛行機でロンドリイナ

ありや、りや、りや、
刑がくつれて宛だらけ
こんなはとこで作らうのナ
マルヤマは
みよえの洋服店です



へ。口市で鳥取県人の歓迎會に臨み、口市
を基点として西方アサイ、北方アストルが
を視察されたが、此の方面の案内役は北岡
大家金子氏等であつたが、收穫として中々
大き々アサイの伊藤農場に於けるラミ
栽培状況、アストルがでは新製珈琲地帯
で無限に採られた五十年もの珈琲の美し
さには感嘆されたようである。而して美し
日本より移民をコロノとして送る場合の
便好の足掛りである。
同知事は、アマゾン、バストス、アリアンサ、口
ントリイナ、サンタカタリナ其他各地の工
場と果人より贈られたが、之を以て見ても
尋常一様な役人ではないことが判る。土産
を贈らうとする、地方の寫真とかを贈る
見本品とかなりは、人々で受取られるが、他
は固く辞退するといふ。いわゆる今迄の訪
伯族とは余程違ふを異にしてゐるのであ
る。只々何ともし、移民対策について何
かしつかりとしたものを、個人でそれを見
のお土産としたいと、視察そのものも熱意
に燃え、又献身的であつたといへる。知事
の今回の旅行、アマゾンと除き、往復四千キ
ロの行程であつたといふ。(聖州パラナ州)
帰郷は十月末との事であるが、帰途はリ
マ市に四日間柔港に二日間滞在予定。去
る六月、日羽田と帯約五ヶ月の世界一周
旅行をした。全事とある由であるが、帰郷
するとすべし、全国知事會議があり、愛で移民
対策が討議されるといふ。
長々と知事の足跡を記したが、此の真刻

石油 ジャカレ 印
ビル フラマ 印 代理店

何れも最優秀品はかり入荷

市價の最低値段にて提供

其他内外雜貨正礼より大割いたします

何品によらず迅速配達申上はます

RUA PRES. VARGAS BASTOS

前山商店

さし誼もが胸を打たれた事は勿論だが受
入態勢然る可くたのむと言はれると、ち
らにも証文がある。知事にして見ればア
ママンをばじめ諸所を視察されてゐるの
で吾々がかりにアママンは、いかにい
て見たところでも軍をなすか、いかに
ないこととなつてしまふが、知事の移民
配分の構想なるものを大別すると、アマ
ンに適合するもの、麻州に適合するもの、
ラナの加排地帯、聖州各地への技術移民
いふ分類となり、聖州を除き他は家族移民
聖州へは單獨移民が可なりといふよう
案既も既に済んでゐるのには、いかと思
ふ。事實アママンは、トラス以外へは、
固移民の途は開けて居らず、只僅かに養
蚕移民、二百家族のみが聖州入を約束され
てゐる現状である。
が單獨と家族移民とを、同はず、受入れ
側の希望は、彼らが、アママンでなく、
赤い思想者でないことである。筋が、入
りの中央が、入りこも来て、いかにい
ラシルの日本人、コロニアは、いかにい
事になつてしまふ。戦年が、すんが、八年
なるのに、まだ朝鮮戦線へ出ないとい
見たり、日本精神高揚の爲の、サンタマ
湖畔へ、帰つた村を建設せ、収は、収ま
は、コロニアの、智性、低俗の、露露であ
年以上の、思想、カン誌による、智性の、ズレ
ある。そういふ、豆腐の、ように、柔か
の中へ、共産思想の、人達が、やつて、何
宣傳でも、やむが、指導の、ような、こと
たら、とう、であらう。加藤勝法、古沢
崎勝造と、勝の、字は、かり、ついた、人
で、け、こう、コロニヤ、をか、さ、ま、わ、す、の、で、あ
共産系の、す、ご、い、り、が、い、ま、五、人、未、た、ら、い、ま、
す、さ、ま、い、い、事、を、や、り、出、す、で、あ、ら、う、
そういふ、思想の、点に、知事、諸公、が、目、を、籠、
と、い、ん、で、も、ない、事、に、な、り、ま、す、と、釘、を、
して、お、く、次、才、である。
当地、バン、テ、イ、ラン、テ、ス、組合の、主任、水、島、
んは、自分、の、組合、で、働、いて、賞、ふ、枝、術、移、民、の
指導、に、つ、いて、獨、特、な、獲、取、を、さ、れ、た、相、で、あ
る。それ、は、先、づ、自、費、で、渡、伯、して、自分、の、組
合、へ、来て、日本、の、新、い、道、人、だ、を、さ、々、な、技、術、を
見、せ、て、欲、しい。真、面目、に、さ、へ、や、つ、て、く、れ
れば、渡、航、費、は、あ、こ、で、も、い、と、お、返、し、す、る。
そして、その、單獨、の、青年、が、家族、を、よ、が、寄、せ
る、よう、に、す、れば、大、体、あ、や、ま、り、の、ない、勤、勉
な、よ、い、家族、を、得、る、こ、と、が、出、来、る、と、い、ふ、案
であり、既に、之、を、実行、に、移、して、い、る、と、い、ふ
事、である。大、き、い、移民、問題、に、タ、ツ、ケ、した
話、ではない、が、人口、が、あ、ま、つ、て、困、る、一、つ、バ
カ、カ、ン、ド、く、る、み、共、産、系、く、る、み、引、き、取、つ、て
くれ、まい、か、と、云、は、れ、て、も、受、入、側、に、は、受
入、側の、希望、の、ある、点、を、強く、主張、した、一、面
として、傾、聴、に、傾、ける、話、ではない、が、
これ、と、や、や、似、た、話、は、重、道、氏、や、奥、田、氏、から
出、た、移民、の、渡、航、費、問題、である。

松系移民は日本國家が一人十四万円とか
を貸与するが、呼奇式移民にも國家が果
を通じて貸与するが、又は各県が補助する
事として移民の身柄だけを当地に於て引
受けるといふ案であるが、實際何人の中
かりも無い人を、こちで渡航費を出費又
は立替えて呼寄せる程、こちでは困つてい
ないのである。だから日本の方で渡航費
を補助して、而も人格高潔勤勉非赤化の人
を寄越して、くれると、あつて呼奇手続の劣
を、各、む、も、の、で、は、さ、く、到、着、後、人、に、應、じ、て
士、農、工、商、に、推、高、する、で、あ、ら、う、(註、に、曰、く
士、は、月、給、島、也)
政府より現在に到る十、幾年の間、全く移民
後、後、部隊、が、絶、えて、しま、つ、た、為、の、時、々、の、訪
伯、族、に、御、養、費、を、上、ホ、る、よ、り、外、新、い、日、本、人
を見、ない、の、で、吾、々、の、日、本、人、的、官、費、も、よ、ほ
と、祖、國、を、入、め、を、れ、と、は、か、け、は、な、れ、た、も、の
になつて、い、ま、が、ズ、レ、て、い、る、と、思、は、れ、る。
或、人、が、正、直、な、移民、を、送、つ、て、く、れ、と、知、事、に
証、文、を、た、が、之、れ、な、い、と、い、ふ、今、六、ヶ、敷、の、註
文、は、な、い、か、と、思、は、れ、た、今、時、家、族、振、振、
て、佛、様、の、よ、う、な、人、は、か、り、と、い、ふ、の、は、あ、ら
まい、移民、の、資格、を、同、は、れ、る、時、一、人、で、も、不
正、直、な、人、を、送、つ、て、く、れ、と、は、言、は、な、い、で、あ
ら、う、(註、に、曰、く、コロニアは平和なのであ
る。あ、か、し、な、ア、ラ、レ、に、か、さ、廻、は、れ、度、く、は
ない、の、で、あ、る)
その、代、り、真、面目、な、人、勤、勉、な、人、が、未、伯、す
る、な、ら、ば、他、地、方、は、知、ら、ず、單、に、バ、ス、ト、ス、と
い、ふ、小、一、部、け、り、村、に、於、て、い、も、短、時、日、の、内
に、必、ず、經濟、的、な、地、盤、を、作、る、も、の、で、あ、る、こ
と、を、高、ま、し、て、擇、ら、ない、
多少、と、も、移民、向、野、に、觸、れ、た、現、地、の、声、と、し
て、さ、い、て、實、へ、は、け、つ、こ、う、と、思、ふ、(了)

有るな
廣貫堂の
家庭薬

一袋の中に左の緊急薬を入れてあり
ます。い、い、と、い、ふ、時、す、ぐ、間、に、合、は、し、
熊膽丸(はらいた止め) メンソレム(さす)
マ、イ、モ、口、軟、膏、(五、リ、カ) 救命丸(小兒熱等)
サ、ン、ト、ニ、ン、(虫、下、し) 高級セキ(強力)
高級とんぷ(強力熱さまし) はらいたとんぷ(強力)
以上ソルチード之れだけあれば一寸とし
た故障はすや止ります
農家必備の家庭薬
おすすの致します

回蟲 蛭蟲 積蟲
ASKIS
サ、キ、薬、局

チエテ、アリアンサ

両移住を巡って

G. サキタ 生

皆様の御存知の通り昨年末東京大学助教授泉靖一博士が来伯せられ文化人類学者の立場からブラジルに於ける邦人の実態を調査されました。来植の時はバスター移住地では、アルト画と、スウリア画の一部を調査されました。小生は、その御案内役を承はり先生一行と十数日間行動を共に致しました。斯ういふ経験からか本部の命に依りて同様の調査をチエテ、アリアンサ移住地にて行ふ事になり、その調査団に参加致しまして、二十数日間、該地に参り農家の方々と親しく御話をし、又、語り合ふ事の出まました事は、私にとって非常に為めになったと思ひます。又、兄弟移住地ではあるがバスター移住地とは異つた点も多し、發見して大変興味深き思ひられました。二十数年つくり古した土地を如何に改良し、如何に使用してゆくかといふ点に就ての研究は、何処でも行はれて居ります。私の見聞を發表させて頂き、多少とも皆様に御参考となる点がありすれば幸甚と存する次第です。

チエテ移住地の巻

ロ線ルツサンウイラ駅で下車し、オニマスでチエテ名所のチエテ大橋にさしかか、つた時は、もう太陽は大分西に傾き涼風袖を拂ふ頃でしたが、八月の末だといふのに非常な暑さを感じました。かぬてチエテといふ所は暑いところと聞いては居りましたが、何と、その暑さのきびしき、御話にならぬ程でして、到着した其の夜なご十二時頃迄は、どうしてか寝られませんでした。

調査はチエテ移住地最初の入植地と言はれるウニオン区を行ひましたが、私が一番吃驚したことは土地のよいことでありました。チエテ河の流域でテラロソヤです。植えそある物を見て、その出来のすばらしい事、到底バスターなど問題になりません。だが斯うした良い土地に入植者の少ないのも亦一驚を喫しました。大地主になると百以上二百アルケル位の人もあり、従つて隣家までニキロも隔れてゐるよう人もありました。農作としては主として牧場、棉作、養鶏、養蚕、雑作が変つた入植者にはマンゴカ精粉業を専問にして居る人もありました。現在残つて居る人々の大半はそれぐ落付いた農家ばかりの様に見受けましたが、中には、はつきりと

とこの良い所があれば、と言つて居る方もありました。廣大な牧場を持ち、数百頭の牛を飼ひ、高副業として養鶏をやつて居る方が居るので、同じ見ると「肉牛を飼ふ程、のんびりした仕事は無い。牛の病氣を發せしめない限り何百頭も出て来る。余り仕事は平凡なので働く事を忘れず、いけないと思ひ、家族全体で働く養鶏をやつて居る。同じ生き物扱ふのだから云々」といふて居る非常に落付いた人もありました。

生活程度も非常に地味に思はれ、住宅に致しましてはバスター移住地と比較して見ると質素な感じが致しました。チエテ移住地の将来は、尙移住地も同じ事が言へるのですが、大牧場主の集團と化する様な氣がします。それはバスターなどよりも、もっと早く牧場に変つてゆく様に思はれるのです。未だく作れば出来る土地でありますので何となく惜しい様に思はれました。

聖州が三角ミナス、マトクワソ州にも一番近い地点で、早く開けたペレイラ、バレット市(チエテ市街地)はもうコメルカでもあります。移住地そのものの周圍が、まだく用柵せられていない事から考へます。何人か、ここに政治力を加へたならば、聖州最北西部に於ける大都市として再發することはいは決して夢ではない、不可能ではないといふ感があるのであります。そうなることによつて多額の費用を投じて築かれたあちチエテ川の吊橋も大いにその価値を高めることになると思ひます。かくすることが、ペレイラ、バレット市をして牧場主たちの小都市で終ることなく、入植者そのものが、それぐ生きる道を大きく押し擴げてゆく同様の本道であると思つたのでした。

(チエテ移住地調査第一時帰植せよといふ当地事務所からの手紙で帰植したるをもっとく深く固く見たいと思つて居たこと、實現せよ、その内容の濃いものなりました)

養蚕小屋、鶏舎の

建築材料

エーカリプト

販賣

上質、ユーカリの木炭

一俵以上何十俵でも御注文に承す

何れも見本おいてあります。政御らん下さい

バスター市 アテマルバロス街角
 アルファセン
 セリアリエン
 モンテアレオン
 佐藤利右衛門

養鶏家の皆様へ

当バストス移住地も養鶏の里と謳はれる
迄非常な発展振りを果たして居ります
為めに當組合でも養鶏部の設置を見まし
たが未だ日尚残りの御座います。發足以
未其の運営には幾多の支障を未だし御承
知の通り昨年八月十六日を期して止むなく
其の運営を中央會の直轄に委ね、現地に
於ける一助の権限を亀田喜楽氏に附與さ
れて参りました。が、今回計らずも中央會の
指令によって不肖私が引継ぐ事になりま
した。茲に紙上を以て養鶏家の皆様(御
報らせ申上げます。

猶今後共益の皆様の御繁栄を期する為
め、微力ながら懸命の努力を致す覚悟です
が支れには皆様方の一層の御結束、御支
援を御願して止まないもので御座います。
先は取敢ず右御報らせ道。

中央會出張所養鶏部

畑 中 忠 姓
各位

バストス婦人會より通告

バストス婦人會は毎月第一日曜日と例會
と定の料理講習、其他有意義な催しを
ついで来たが、来る十一月一日(日)はお盆
(諸聖人の日)につき、墓参其他諸用を慮り、何
も催し事さしえないことになりました。
右御しらせ道

御礼

去る十月十四日西本願寺布教師上野袖子先生
御来植の節、自動車を御提供下さい、先生の
送迎其他献身的な御働きをいたさしましたこ
とを厚く御礼申上げます。

昭和廿八年十月二十日

バストス佛教會

三刑田 八服店

三刑田 育人様

パルケル

萬年筆の拾得者が届け出ら
れました。落した人は御申出下さい

週報社に預り有り。

佛教會再發足せん

戦前にはバストス佛教會と名乗る信仰團體
があったが、其後色々な事情で沈滞してしま
した。然るに戦後、宗門の浸化者激増し、これら
世話は市中在住の一部の人が善根を積むよ
うなつたり、之に當つて居るところ、最近各方
面より佛教會復活希望の声が起つて来た。
篤信の人達は自らその一員となり、いかなる奉
仕も未だ限りなく之に志する精神を披瀝し
て居るが、中には之を佛教と限らず、少くは
拓けて信仰を専らとする會とすることを希望す
る向きもあり従つて名も佛教會とするか或は
他に適切なる名を冠すや未決定であるが、近
く同志一堂に會し、再發足の準備をかため
たいふことである。

盃蘭盆會に

大野法童師を招く

来る十月一日盃蘭盆會第一日、凡そ在住
東本願寺用教師大野法童師を招くことになり
既に承諾を得た。

先頃骨上げをした三十数体の御骨は、既に
納骨堂にをれ、納めまつり、今回大野師よ
り初の供養を上げ、賞ふこととなるのである。
尚一日十時より、納骨堂前に祭壇を設け、
供養會を催し、永代經を誦經される筈である。
諸家の方々にて位牌を持参されれば、当日同所
に於て永代經を上げてもらうことが出来る。

当日の供養は軍に有縁の慰霊ならぬのみならず
無縁の施餓鬼も兼ね執行されるものにつき、日
常合掌を怠つて居る人も、第一度の信仰心に灯
をともして頂きたいものである。(佛教會)

東本願寺

大野法童師

講演會

来る十月廿一日午後七時半

産業會館に於て

大野先生は既にバストスには二三度来て居られ、その相辨
は皆さん御承知の通りであります。とうも心の洗濯心
の純潔の爲めに御来聴下さい

佛教會
世話人

バストス

開植當時をふり返る

畑中仙次郎

バストス小学校初代校長として仮校舎に松本高遠さんを御頼みして誠に不完全に...

余志解らぬ生徒には誠に好都合であった。生徒の扱ひ方も特に優れたものがあつた...



Colchão de Mola

早いもので、コルションテモラはもう俳句の題材になりました。僕とこなんご十人家のみな...

抽籤とすばらしいフレミオ附

今ヤシチカからの御申込が殺倒し

バストス代理店

バストス商業事務所内

バストス小学校初代校長として仮校舎に松本高遠さんを御頼みして誠に不完全に...

バストス代理店
バストス商業事務所内

いて色々検討の結果、外務省から約半額五〇コントの補助を頼り、残額は当地負担といふ建前が着手したが、当時副領事として末任中の菱川敬三氏に負ふ所が多い、一九三五年聖市病院建設委員会が結成せられた伯同胞からも一四コント以上の寄附金を集め、当地からも相当額を応募、向ふ三ヶ年に分納の制度であったが、一般に最後の年の分の集りが悪く、其の係長であった菱川さんが其の集金に対して色々と盡精せられて居られた天先でもあったので当地滞納の分は全部集金して差上り、代りに中学校建築費補助金として五〇コント頂くと、いふ交換条件が成立して、総領事館に於て教育補助金の一部を頂戴し、大次第であった。

当地に於ても唯々補助金のみに頼る訳にも参らず、未だ創業時代を脱せぬ時、必要を認められて奇附金が集った、残餘の分はスラ栢の負担で漸く中学校令に添ふだけの校舎が完成し、一九三九年中学校へ入学を待機して居った四〇人餘りの入学生を收容して同校の進歩と相成った。其の間アラ栢本部より終始多大の援助指導を頼った事は申す迄もない。

(此の稿未完、次号へつづく)

日本人の井戸堀り

此の日本人の井戸堀りは責任のある仕事を致します

井戸堀り、井戸替えの御用があります

井戸何卒御用命下さい

御用の方は左記へ御申越して下さい

カーホ・ビトリア

山本商店

座談會 2 パストヌを再検討する

前録

畑中「たとへば瘦せ土地でも、それを見捨てないで研究して利用して、いる人も道頓ふえて居ると思ひます。永久の百姓道へ向いていさよる。皆水の陣を布かなあかんと思ふ。百姓の標式は次々と移れ、くならんや変化があるが、かわればかわる程、土地は生かしてやすすく、と思ふ。私は此のバストヌを何とか有終の美をなしたしめたいと、希ふ外、他意はありません。私の言動が正しいのかどうか、それは解らんが、今桑本さんの作話を伺つて居ると、又一理あるように思ひます。私は

無理にもすすめて、此処へ多くの人を入れました。が、皆を全部幸福にして上げることは出来なかつた。それは残念でした。しかし、何と云つても、史や南言をよめれば、やれるもんです。新しい天地、新しい土地を開発すること、もよいでしょう。私の結局の目的は、バストヌの再生である。と考へて居ります。

田中「今の畑中さんの言葉を少し、補ふ意味ですが、助け舟ですか。榮枯盛衰と云ふ言葉がある。榮える者も或る時期に衰へる。は世の常。私はそんな風に考へて居る。バストヌは、スラ栢の庇蔭によつて出来た温室植民地だつた。それが戦争勃發によつて、スラ栢は庇蔭下の移住地、指導力を失ひ、ほとんとその機能も失つてしまつた。今迄は、スラ栢の背景によつて、すべてが立派に見えて、たかも知れんが、遂にバストヌ人は温室からホリおされてしまつたのです。疲弊し、無氣力であつた人達も、今や自己に、いわゆる自主的となりつゝ、あります。退耕したものが多かつたので、淋れた点はある。うが荒れてゐるのではない。桑本さんの目にうつつたのは、単なる外観のみ、と思はれます。(七頁へ……)

JOSE IGNACIO PINTO
Fabrica de Jaca
Rua Campos Salles 118 (em baixo de Cadeia)

上等確實な苗木

CAFFEE カフェー

EUCALIPTO ユーカリ

LARANJA ランジア

LIMÃO リモン

色々の種類を仕立ててあります

数量多く御求め下さいれば割引あり

何れもガランテード

Vende-se Jaca ou no muda

苗圃はカローリア 吉田三吉氏 ロッテ

直接御出でになりませも、上記私方へ御出で下さつても、どちらでもかまいません

多少に不拘御用命下さい

育藤龍雄馬墓碑につき御報告

野球の龍ちやんが、カポルテンテで遊去して十八年とかなる。カポルの天谷末七人及者、植田長等が荒れ果てた同君の墓碑を修理し、龍山利剣氏の誦經を頼り懇ろにこむ。たとへば報告を同地にヒアジシた井上徳六氏が当地青年団に齎した。

龍ちやんの縁故者に申しらせ致します

聯青団長 西 徹

